

教科教育と探究学習の往還による主体性の育成の取組

目 的) 生徒による問題発見や課題設定、質問の創出等の課題に対する取組。

実施内容) R5年度に実施した取組

- ・校内で授業力向上のための方策や学校として取り組むべき課題について検討を重ねている将来構想委員会より、1年時「探究Ⅰ」や通常授業において、「問づくり」をテーマに授業改善週間を実施し、研究授業・研究協議を行った。

↓

- ・その取組が校内で普及

成 果)

- ★ R5年度の探究Ⅱ成果発表会、R6年度(Ⅲ期5年目)の探究Ⅱ中間発表会では、SSH運営指導委員より、生徒の質問力や質問の質が向上し、探究活動の深化にもつながっているという意見をいただいた。

- ★ 外部発表会入賞数の増加にもつながった。

(令和5年度の外部発表の成果)

- 化学工学会学生発表会にて優秀賞1本、奨励賞を1本受賞。(受賞数2本/発表本数2本)
- 大阪府生徒研究発表会にて銀賞を1本受賞。(受賞数1本/発表本数8本)
- 化学工学会学生発表会にて奨励賞を17本受賞。(受賞数17本/発表本数17本)
- 全国数学生徒研究発表大会にて1班が発表。
- 京都大学ポスターセッションにて大阪府代表として1班が発表。
- GLHS 合同発表会にて1班が発表。
- 探究活動の文理の枠を越えた学際班の増加
(Ⅲ期め学際班の数推移) 1～3年目: 1班 → 4年目(令和5年度): 11班/全体48班
- 大阪府学生科学賞にて大阪府教育委員会賞を受賞。(受賞数1本/発表本数6本)
- SSH生徒研究発表会にて1班が発表。
- Q-1 U-18 が未来を変える研究発表 SHOW にて8班が発表。
- 神戸女学院大学探究フォーラムにてグッドデザイン賞受賞。

大阪府のグローバルリーダー育成の取組に対する評価である GLHS 評価の課題研究の項目において「AAA」(最高位)の評価を得た。

- ★ 教員評価アンケート項目「SSH 活動の目的にかなうような授業の取り組みを以前より実施するようになった」に対する肯定的意見の割合 R4年度: 64 % → R5年度: 84 %

令和6年度は「そもそも「授業力」って何？」というテーマで、4名の教員の授業をモデルとし、それを見学した教員が授業から見取った「授業力の高さ」を言語化したものを集約・分析することで、「授業力」というものに対する認識を深める取組を実施した。